ユネスコ
世界文化遺産
明治日本の産業革命遺産 ～製鉄・製鋼、造船、石炭産業～

日本における産業の近代化は、西洋以外では初めてのことであり、しかもそれが短期間で飛躍的な発展であったという点で、世界史的にも特筆すべき出来事でした。平成２７(2015)年７月に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」は、九州・山口を中心とした８エリアにまたがる２３の構成資産全体で、製鉄・製鋼、造船、石炭産業を中心とした、幕末から明治期における飛躍的な産業の近代化の流れを伝えています。三池炭鉱関連の資産も、「明治日本の産業革命遺産」を構成する資産の一つです。

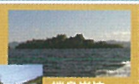
	1850年代 試行錯誤の挑戦	西洋科学技術の直接導入	1910年 産業基盤の確立
製鉄・製鋼	鹿児島 旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝（鹿児島県鹿児島市） 韮山 韮山反射炉（静岡県伊豆の国市） 釜石 橋野鉄鉱山（岩手県釜石市） 萩 萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾（山口県萩市）		八幡 官営八幡製鐵所、遠賀川水源地ポンプ室（福岡県北九州市、中間市）
造船	鹿児島 旧集成館、関吉の疎水溝（鹿児島県鹿児島市） 佐賀 三重津海軍所跡（佐賀県佐賀市）	長崎 小菅修船場跡（長崎県長崎市） 長崎 旧グラバー住宅（長崎県長崎市）	長崎 三菱長崎造船所 第三船渠、ジャイアント=カンチレバークレーン、旧木型場、占勝閣（長崎県長崎市）
石炭産業		長崎 高島炭坑（長崎県長崎市） 三池 三角西港（熊本県宇城市）	長崎 端島炭坑（長崎県長崎市） 三池 三池炭鉱（宮原坑・万田坑・専用鉄道敷跡）・三池港（福岡県大牟田市、熊本県荒尾市）

旧集成館

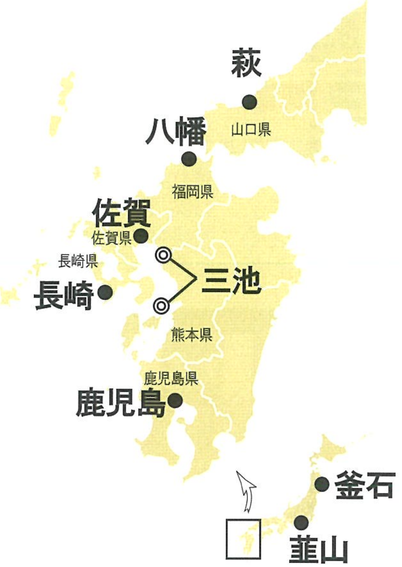
遠賀川水源地ポンプ室

小菅修船場

三菱長崎造船所ジャイアント=カンチレバークレーン

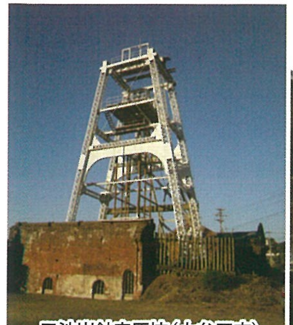

端島炭坑

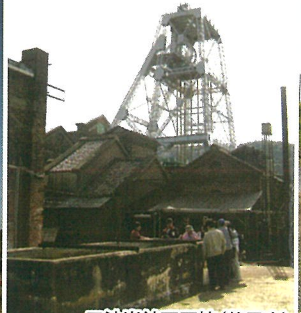
三角西港



三池炭鉱・三池港

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つである三池炭鉱は、国内最大の炭鉱として、また高島炭坑に次ぐ近代炭鉱として、国内産業の近代化に対し主にエネルギー面で貢献してきました。三池炭鉱は平成９年(1997)に閉山しましたが、現在も大牟田・荒尾市内には石炭産業に関連する施設が数多くのこされています。石炭を掘り出した坑口・石炭を運搬した鉄道・石炭を海外にまで積み出した港湾、それらが、一貫した線状の炭鉱産業景観を形成しています。


三池炭鉱宮原坑(大牟田市)


三池炭鉱万田坑(荒尾市)

三池炭鉱専用鉄道敷跡(大牟田市・荒尾市)

三池港(大牟田市)

三池炭鉱の歩み

三池で石炭が初めて発見されたのは文明元(1469)年のこと。農夫の伝治左衛門が燃える石を発見したと伝えられています。本格的に石炭が採掘され始めたのは江戸時代中期以降のことで、製塩用の燃料として遠く瀬戸内海にまで運ばれていたことが記録されています。

三池炭鉱は明治６(1873)年にいったん官営化されたのち、明治22(1889)年に三井組へ払い下げられました。民営化後は、米国マサチューセッツ工科大学を卒業した團琢磨が初代事務長に就任します。團は石炭運搬や坑内排水の改善など、当時最新の技術を導入し炭鉱の近代化に努めたことから、三池炭鉱育ての親と呼ばれています。

宮原坑や万田坑に代表される坑口から三池炭鉱専用鉄道を通じて運ばれた石炭を、直接大牟田から海外へ積み出すため、明治41(1908)年には三池港が建設されました。それまでは三角港や口之津港などでの積替えが必要でした。三池港は有明海の干満の差を克服するために、国内では唯一閘門(こうもん)をもつ港として、建設から100年以上たった今も、重要港湾として使い続けられています。

さらに三池炭鉱から産出される豊富な石炭と三池港を背景にして、石炭からコークスや肥料・染料などの化学製品を製造する石炭化学コンビナートも国内で初めて形成されました。

発展の一方、三池炭鉱では労働者不足を補うために囚人などによる労働も行われました。

戦後はエネルギー供給の担い手として、日本の復興に大きな役割を果たすとともに、多くの労働者が集まりました。しかしエネルギー革命が進む中、日本最大の労働争議として知られる三池争議や、458人の死者を出した三川坑での炭塵(たんじん)爆発事故などが起こっています。

その後は自走枠やドラムカッターを導入するなど、大規模な機械化が進められ、昭和45(1970)年度には年間657万トンの出炭量を記録します。坑道も深さ600メートル以上、有明海中央部付近にまで伸びました。しかし国内炭はしだいに低価格の輸入炭に取って替わられ、日本一の出炭量を誇った三池炭鉱も、平成９(1997)年３月に閉山します。

その後、平成27(2015)年７月に宮原坑、万田坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡、三池港、三角西港が三池炭鉱・三池港関連の資産として世界文化遺産に登録されました。

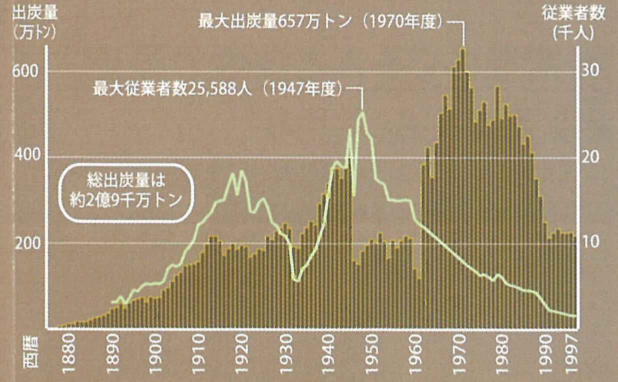
蒸気機関を導入した大浦坑

三池炭鉱育ての親、團琢磨

完成した三池港閘門

日本最大の労働争議、三池争議

自走枠とドラムカッターによる採炭



三池炭鉱の出炭量( )と従業者数(—)の推移

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」
三池炭鉱・三池港ガイダンス施設

大牟田市石炭産業科学館

OMUTA COAL INDUSTRY AND SCIENCE MUSEUM

過去から未来へ。
石炭がくれた知恵とドラマを伝えたい。

石炭館キャラクター
クロベエくん

大牟田から今、石炭を語る、伝える、考える。

かつて国内最大の炭鉱のあったまち・大牟田は、時代の歩みの中で石炭の偉大な力を学びました。この地が知る優れた地球資源・石炭の魅力を、未来に伝えていきます。石炭は、時空を超えて輝き続ける地球からの賜(たまもの)。ここで、その姿に出会ってください。

でかけよう!迫力の坑内探検

A ダイナミックトンネル(模擬坑道)

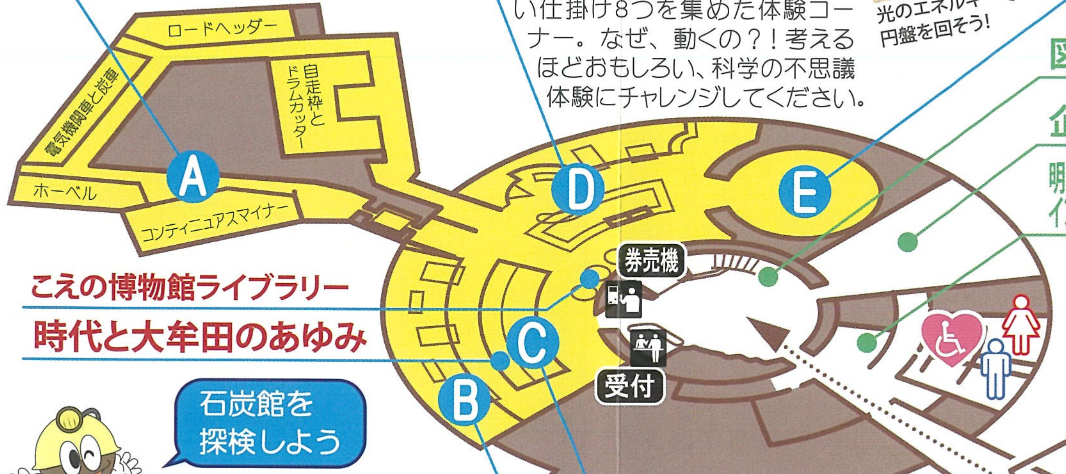
エレベーターに乗って坑内へ。扉が開くと、そこには有明海の地下の採炭作業現場が広がっています。三池炭鉱の坑内で石炭を運搬していた電気機関車、石炭を掘り出す採炭用カッター。三池炭鉱を支えた巨大な機械が次々と目の前に。坑内作業の迫力をエキサイティングに体験できます。

坑道掘進・採炭機械、コンティニュアスマイナー

石炭を運んだ坑内電車と炭車

常設展示室

観覧にあたっては、券売機で観覧券をお買い求めください。入場、再入場の際は、受付に観覧券をご提示ください。



こえの博物館ライブラリー

時代と大牟田のあゆみ

石炭館キャラクター
クロベエくん

暮らしに役立っているエネルギー

D エネルギーと遊ぼう

電磁波を飛ばしたら蛍光灯がついた!磁力で鉄のボールが走った!光をあてたら円盤が回った!さまざまなエネルギーを使って遊ぶ、楽しい仕掛け8つを集めた体験コーナー。なぜ、動くの?!考えるほどおもしろい、科学の不思議体験にチャレンジしてください。

光のエネルギーで円盤を回そう!

図書コーナー

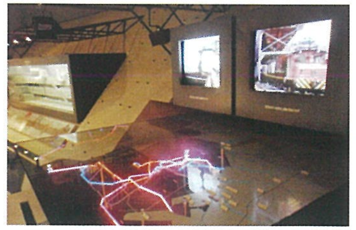
企画展示室

明治日本の産業革命遺産インフォメーションコーナー

石炭をめぐる人と技術の歴史

B 炭鉱技術のあゆみ

現代までの、石炭を取り巻く人と技術の進歩を追うコーナー。石炭技術の発展にたずさわった人たちの熱い思いと努力の足跡に触れてください。


映像と模型で紹介する現代の炭鉱

生活に役立ってきた石炭のあゆみ

C 石炭エネルギーの利用

私たちの生活を豊かにしてくれた石炭の活躍を振り返るコーナー。明治のハイカラな街角に灯っていたガス灯や、昭和の家庭や学校を温めたストーブなど石炭と暮らしをつないだ道具などを展示。石炭利用の幅広さがあらためてわかります。

石炭を運んだ蒸気機関車の模型

映像で学ぶ「エネルギー」や「炭鉱の歴史」と「近代化遺産」

E 映像ホール

三池炭鉱関連の近代化遺産を紹介する「ニッポンの原動力」、人類と石炭とのかかわりが分かる「時空を超えて」、石炭で栄えた大牟田のまちの歴史を証言で伝える「炭鉱電車の走るまち」と「三池炭鉱のまち　わたしたちのまち」を上映しています。

上映中の「時空を超えて」

上映作品

※上映時刻は、電話等でお問合せいただくか、ホームページでご確認ください。

三池炭鉱関連近代化遺産紹介 **ニッポンの原動力**　(16分)

「明治日本の産業革命遺産〜九州・山口と関連地域」の構成資産である三池炭鉱の宮原坑・万田坑、炭鉱専用鉄道、三池港などを紹介する作品です。

地球時代の石炭ストーリー **時空を超えて**　(15分)

石炭がどのようにしてできたのか、どのように使われてきたのか、そして石炭のこれからを学べる作品です。

炭都シンフォニー **炭鉱電車の走るまち**　(20分)

大牟田のまちが炭鉱とともに発展する中で、どのような歴史的な出来事を経験し閉山を迎えたのかを、関係者のインタビューと過去の映像で簡潔にまとめた作品です。

三池炭鉱のまち　わたしたちのまち

子どもたちが不思議な体験をしながら、三池炭鉱の跡を巡り、石炭や炭鉱と大牟田のまちのなりたちを学ぶ作品です。

大牟田市石炭産業科学館 利用案内

開館時間

午前9時30分〜午後5時

・車椅子対応トイレあります。
・車いす、シルバーカー、ベビーカーの無料貸し出しも行っています。

休館日

毎週月曜日(祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月29日〜1月3日)

観覧料

[単位:円、消費税含む]

	個人	一般団体	土曜日・学校団体
4歳〜中学生	210	160	130
高校生	420	320	260
大人	420	320	420

※25名以上は、一般団体料金が利用できます。
※身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、観覧料減免制度があります。

ガイドツアー

土曜、日曜、祝日の午前10時30分からと午後1時30分から、展示解説ボランティアによる、定時ガイドツアーをおこなっています。
また団体見学などで展示解説を希望される場合は、ご予約ください(平日の予約も可能です)。
問合せ　電話:0944-53-2377

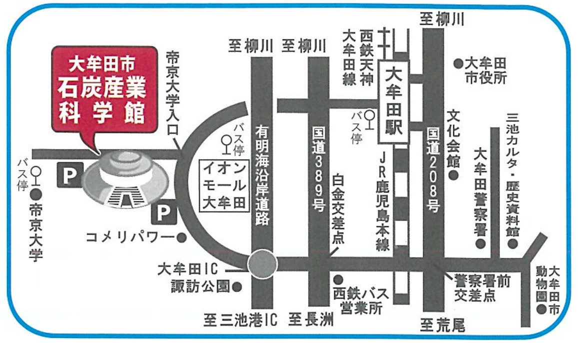
交通案内

九州新幹線 新大牟田駅から車で約20分

JR/西鉄 大牟田駅(西口)から
イオンモール大牟田行きバス終点下車徒歩8分

九州自動車道 南関ICから車で約25分

※無料駐車場あり。大型バスも駐車可能。



大牟田市
石炭産業科学館
OMUTA COAL INDUSTRY AND SCIENCE MUSEUM
〒836-0037 大牟田市岬町6-23
TEL:0944-53-2377
FAX:0944-53-2340
URL:http://www.sekitan-omuta.jp/

(2019.10 50000)